

飯山市第6次総合計画 基本構想 （素案づくり）

飯山市第5次総合計画の総括

目 次

1	社会の潮流	1
2	飯山市の現状.....	3
3	市民のニーズ.....	11
4	人口ビジョン.....	14
5	飯山市第5次総合計画（10年間）の総括	15
6	飯山市における主な分野別の課題	24
7	第6次総合計画の方向性	27

令和4年8月現在

1 社会の潮流

(1) 人口減少・少子高齢化

日本全体の人口減少・少子高齢化が進むなか、「将来推計人口」の推計によると、将来の人口は2025年には1億2,114万人、2050年にはおよそ1億60万人になると予測されています。また、人口の年齢構成も少子高齢化によって大きく変わり、年少人口（0～14歳）が総人口に占める割合が低下するだけでなく、生産年齢人口（15歳～64歳）が総人口に占める割合も低下していくことが見込まれます。

2000年時点の生産年齢人口は8,622万人で、総人口に占める割合は68.1%となっていますが、これが2050年にはそれぞれ、5,389万人、53.6%にまで低下することが見込まれています。生産年齢人口の減少は、労働力の減少により経済成長の制約となり、総人口に占める生産年齢人口の割合の低下は、支え手の減少を通じ、社会保障制度の基盤を不安定なものにすることが懸念されています。

(2) SDGsの推進

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された「国際社会における2030年までの開発目標」です。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための取組が求められています。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響による社会構造の変化

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、「都市集中型社会」から「地域分散型社会」への変化により、地方暮らしに関心が高まっています。

感染防止策として、「密集、密接、密閉（三密）」を避けるため、働き方や経済活動・地域活動のあり方の見直しが進んでいます。

(4) 社会全体のデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進

デジタル技術の急速な進化や、データの多様化・大容量化が進展し、その活用が不可欠となりました。また、新型コロナウイルス感染症の対応において、地域・組織間で横断的にデータが十分に活用できないことなど様々な問題が明らかとなったことから、こうしたデジタル化の遅れに対して迅速に対処するとともに、「新たな日常」の原動力として、制度や組織の在り方等をデジタル化に合わせて変革していく、言えば社会全体のデジタル・トランスフォーメーション（DX）が求められています。

(5) 気候変動に対する意識と自然災害の甚大化

「気候危機」とも言われる地球温暖化が進むなか、その影響の一つとして自然災害の甚大化が考えられています。今後、温室効果ガスの排出量削減に向けた、環境配慮行動や省エネルギー機器の導入などの従来の緩和策に加え、防災対策や熱中症対策などの適応策も講じる必要があります。

国は「2050 年カーボンニュートラル」を宣言しており、達成に向けて再生可能エネルギーの活用等脱炭素社会の実現に向けた取組が求められています。

(6) ダイバーシティ社会の実現

持続可能な地域社会を実現するためには、年齢や性別、国籍、人種、障がいの有無、性的指向・性自認等にかかわらず、一人ひとりが尊重され、誰もが個々の能力を発揮することができ、多様性が受容されるダイバーシティ社会を実現していく必要があります。

(7) エネルギーと食料の安定供給

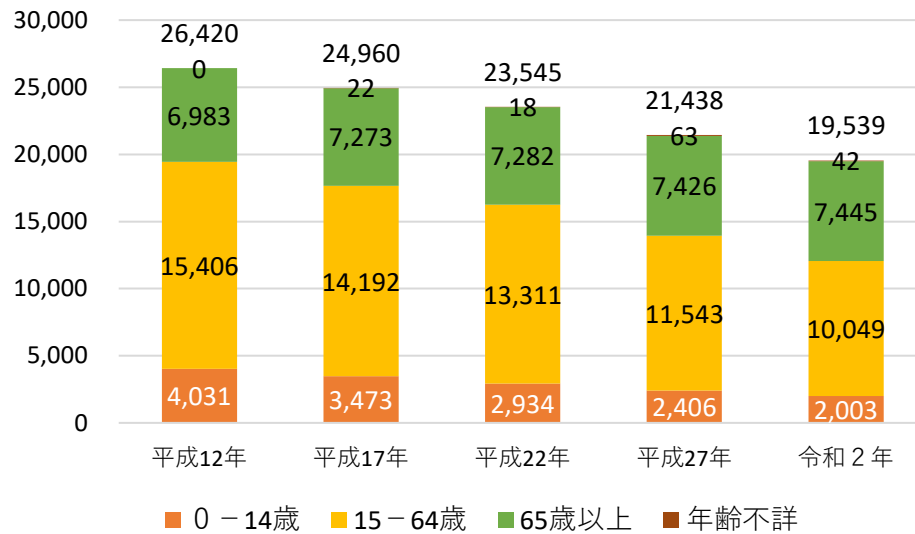
エネルギーについては、石油などの限られた化石燃料に依存しすぎることなく、安全性と環境に配慮した再生可能エネルギーの導入による自給自足の取組などでエネルギーの安定供給を図る必要があります。

また、世界の食料需給の長期的なひっ迫が懸念されるなか、新型コロナウイルス感染症の拡大や、ロシアのウクライナ侵攻等により輸入国間の競合等の懸念が生じており、安定供給を確保することが重要となっています。

2 飯山市の現状

(1) 人口

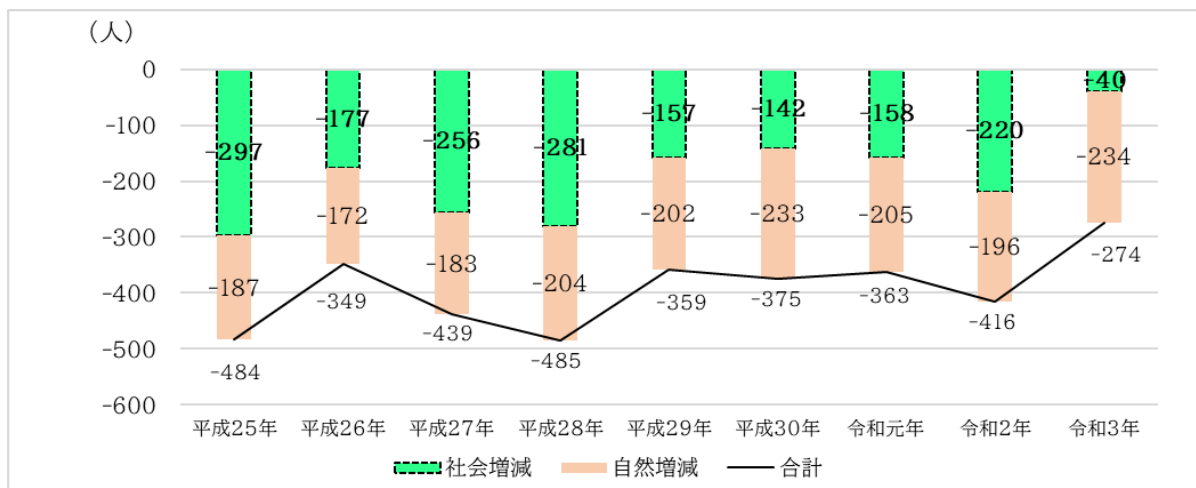
①総人口、年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査

- ・総人口は減少傾向、65歳以上人口は増加傾向です。

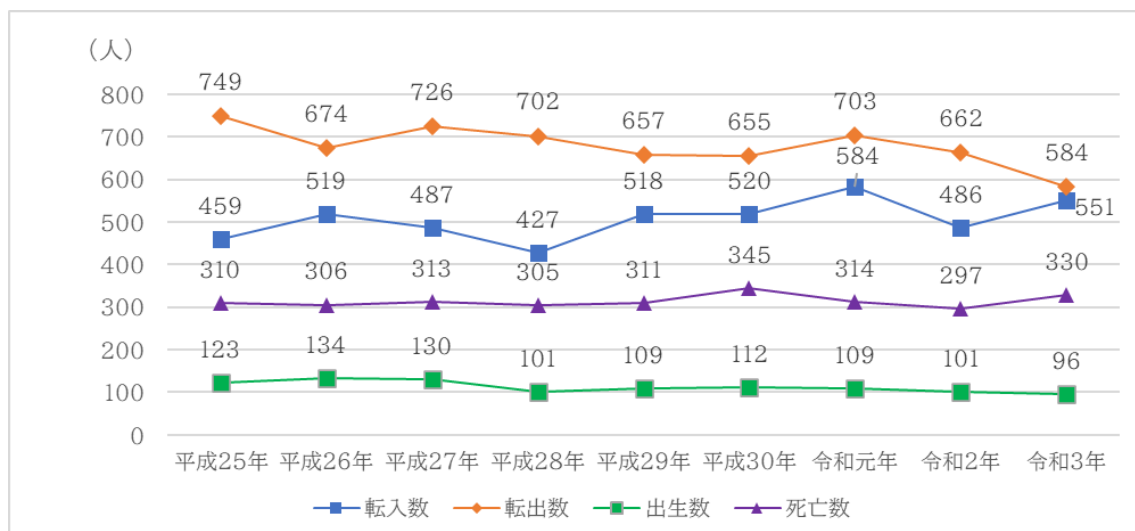
②自然増減・社会増減



資料：市ホームページ「人口、世帯数（毎月人口異動調査結果に基づく推計人口）」再編加工
 【注記】年次データ。職権消除、職権修正等による異動は社会増減に含めて集計

- ・社会減は改善傾向です。

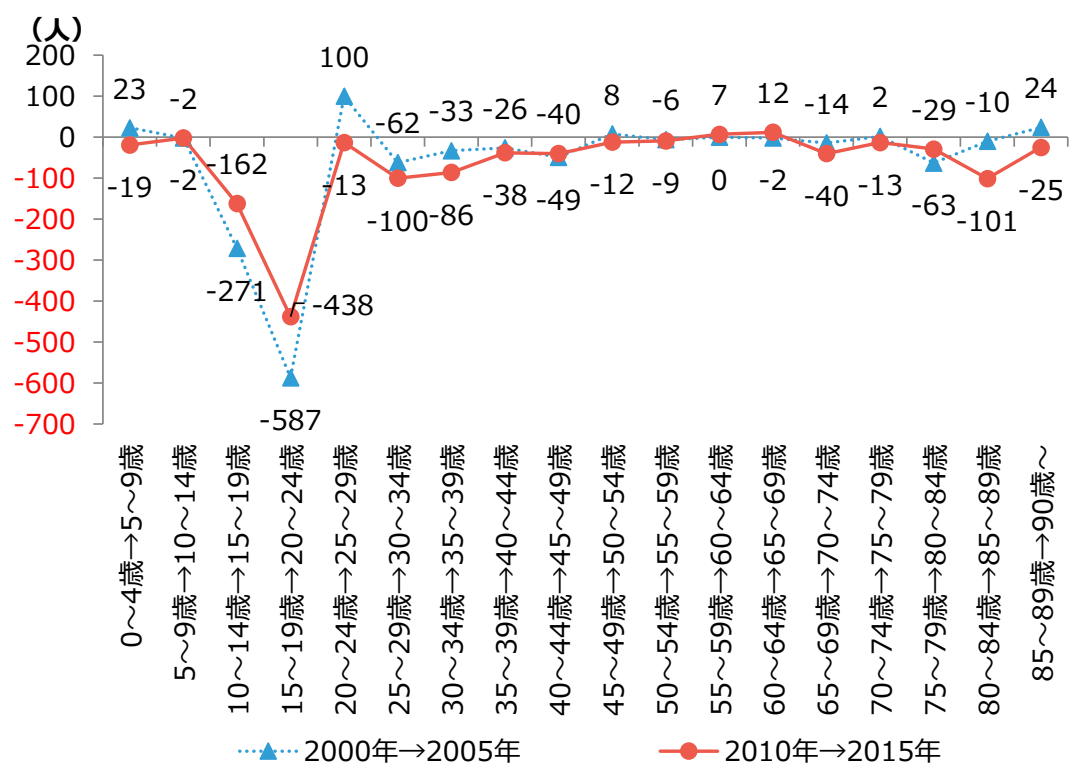
③出生数・死亡数・転入数・転出数



資料：市ホームページ「人口、世帯数（毎月人口異動調査結果に基づく推計人口）」再編加工
【注記】年次データ。職権消除、職権修正等による異動は含まない。

- ・近年の転入数は、概ね増加傾向にあります。

④年齢階級別純移動数の時系列推移

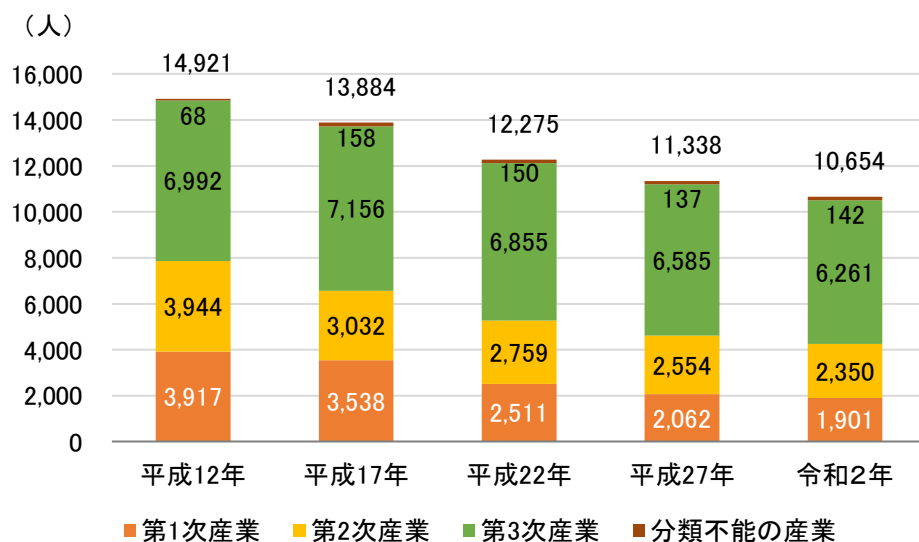


資料：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

- ・10代から40代を中心に市外に移動している数が他の年代より多い状況です。
- ・10代は市外に出る数が他の年代より多いが、経年変化では減少幅が縮小しています。

(2) 産業

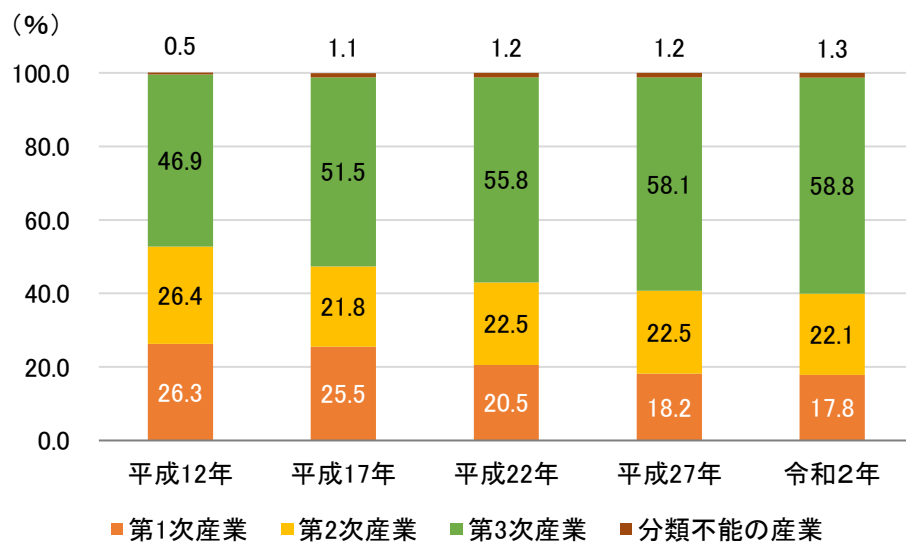
①産業大分類別就業者数



資料：国勢調査

- ・ どの産業分類の就業者数も減少しています。
- ・ 令和2年の第1次産業の就業者数は平成12年の約半数となっています。

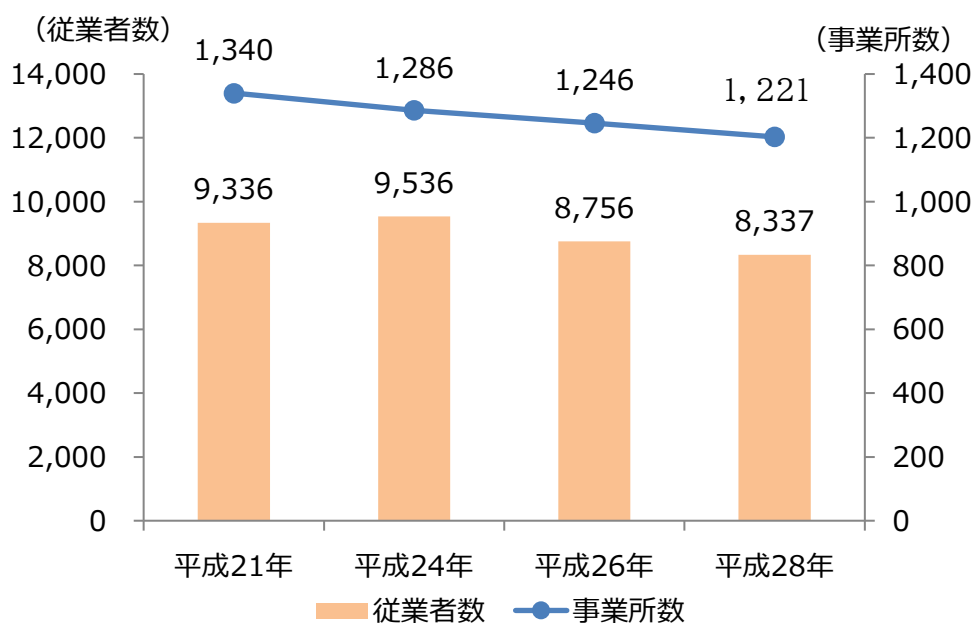
②産業別人口割合



資料：国勢調査

- ・ 第3次産業の就業者割合が増加しており、6割近くとなっています。
- ・ 第2次産業は2割台で推移、第1次産業は減少傾向です。

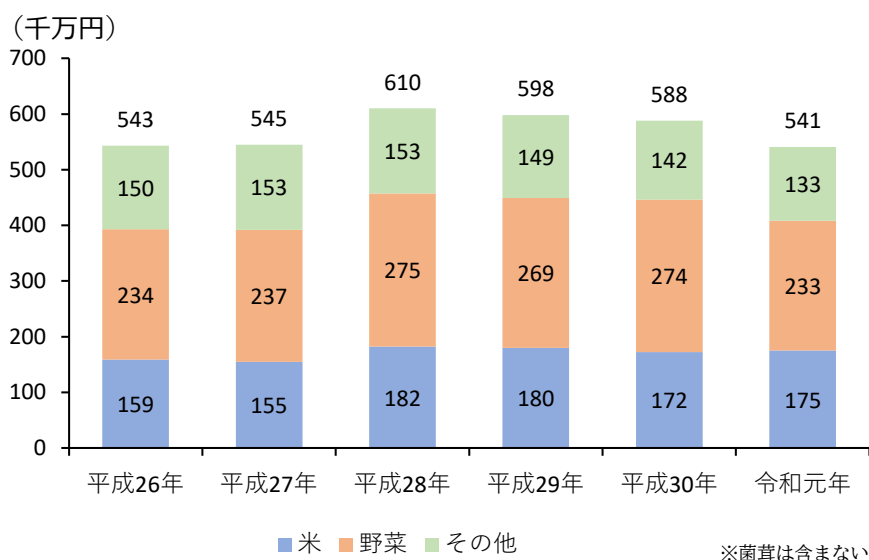
③事業所・従業員の推移



資料：総務省「経済センサス基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

- ・人口の減少に伴い、事業所数・従業員数は概ね減少しています。

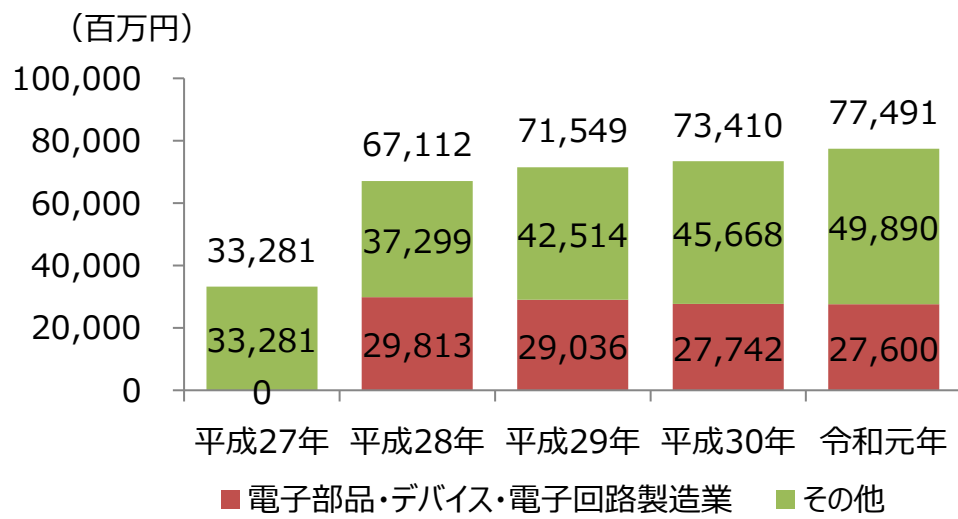
④農業産出額



資料：農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

- ・野菜と米で産出額の7割以上を占めています。

⑤製造品出荷額等

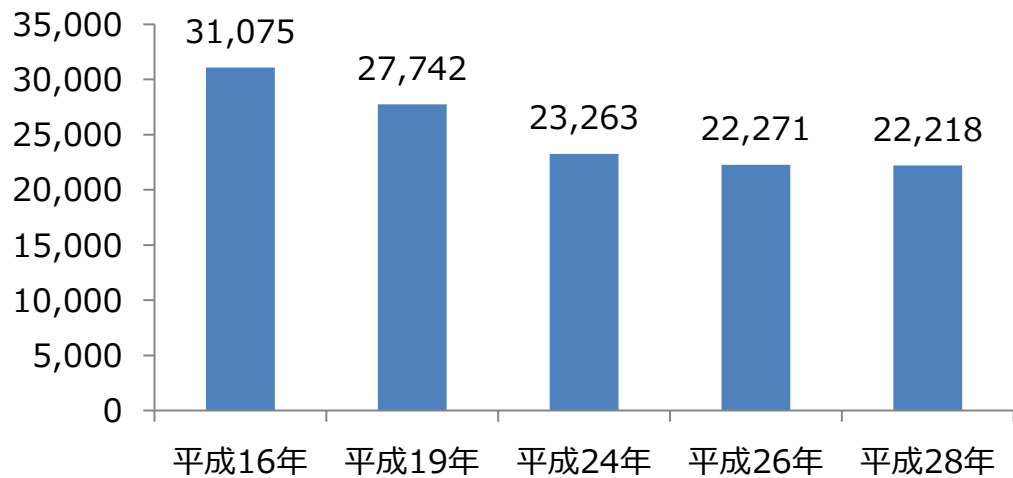


資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

- ・ 製造品出荷額等は増加傾向です。
- ・ 令和元年では、電子部品・デバイス・電子回路製造業が全体の約 36%を占めます。

⑥年間商品販売額（小売業）

（百万円）

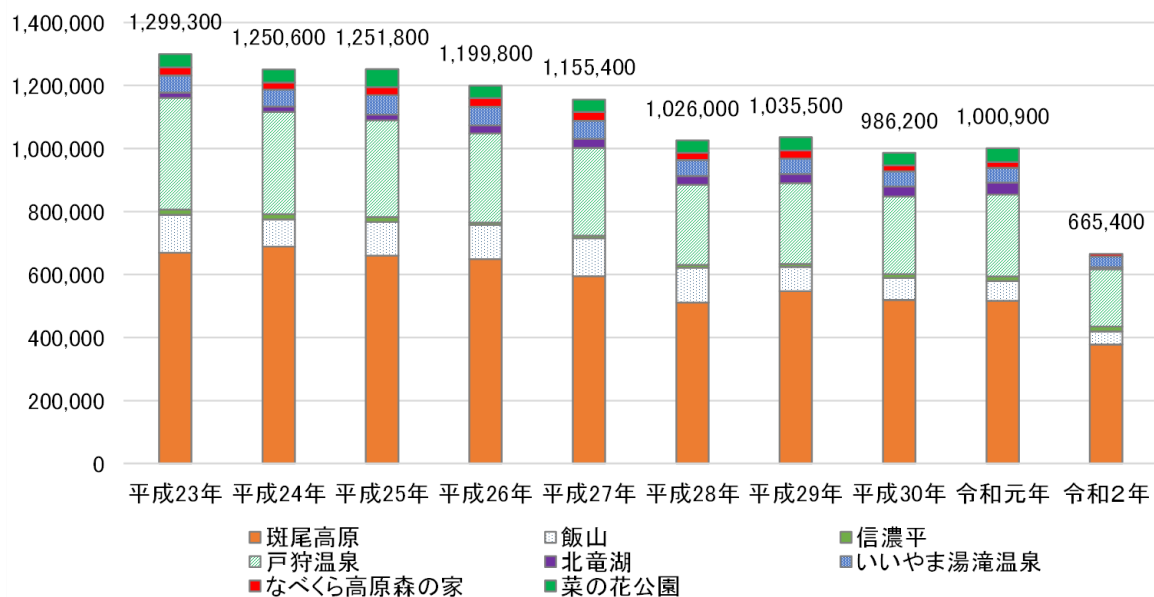


資料：経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」
 【注記】平成19年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間（表示年）の比較が行えない。

- ・年間商品販売額は減少傾向です。

⑦観光地別観光客・利用者数

（人）

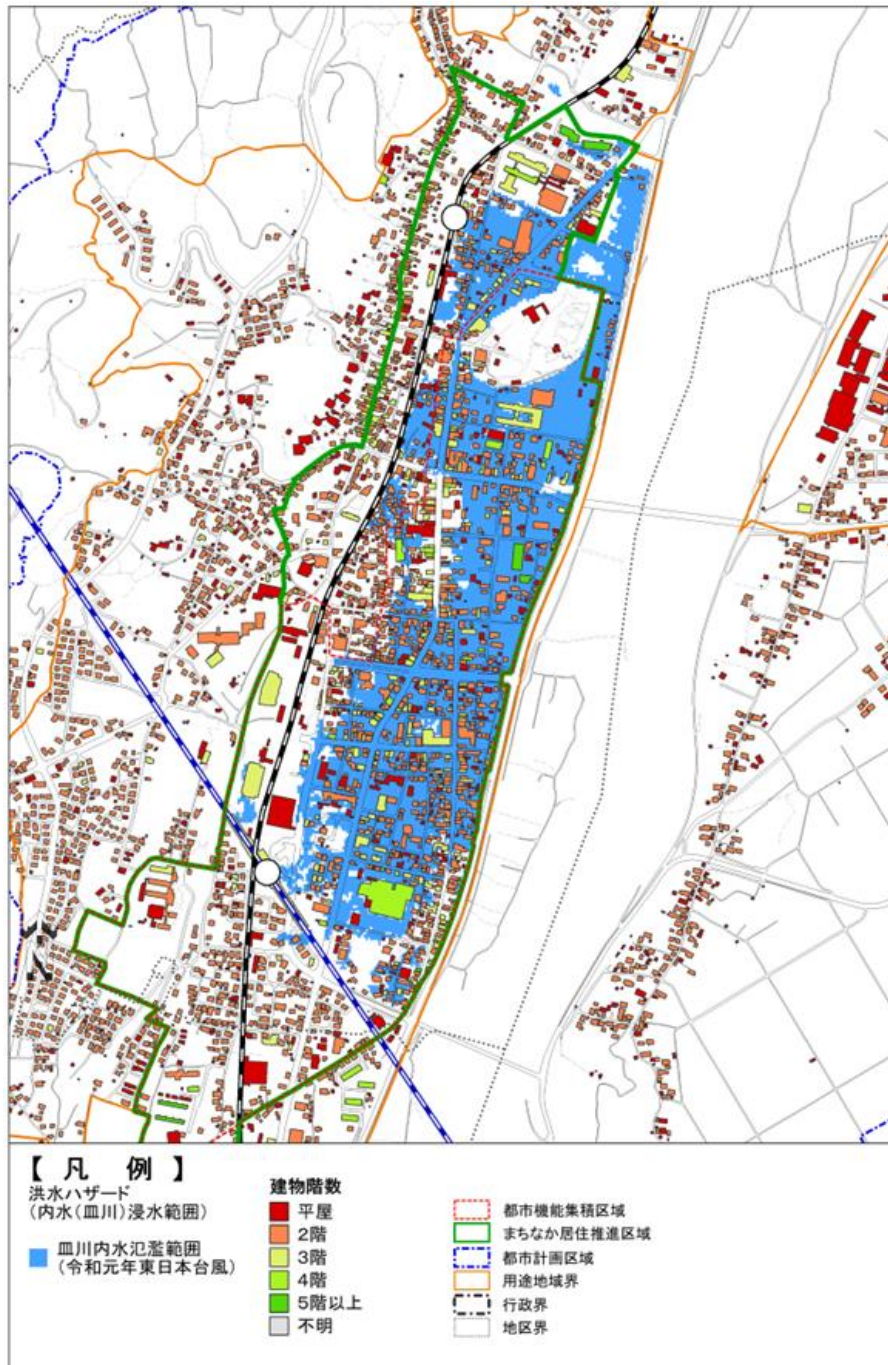


資料：商工観光課資料

- ・斑尾高原が全体の約半数を占め、経年変化では概ね減少傾向にあります。
- ・令和2年は、新型コロナウイルスの影響により大幅に減少しました。

(3) 災害

①令和元年東日本台風による皿川氾濫の浸水状況

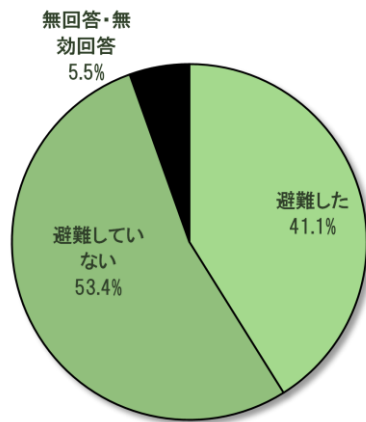


- ・市街地の広範囲にわたって浸水被害が発生しました。
- ・浸水範囲内の建築物の一部は平屋（1階建）で、自宅内で長期間の垂直避難を行うのは困難となる可能性があります。

資料：まちづくり基本計画

②令和元年東日本台風時に関するアンケート調査結果
(浸水被害が生じた世帯と区長対象)

○台風の際の避難の有無



○避難しなかった理由

○避難しなかった理由では、「自宅が安全な場所にあったから」(46.2%)が最も多く、「避難勧告」や「避難指示」が出なかったから、との回答もそれぞれ16.0%、12.9%。
○浸水したが2階に避難した、といった回答が多く、中には、自宅が心配なので、という理由や、高齢者、障がい者、子供等がいるため避難を見合わせた、という回答もあった。

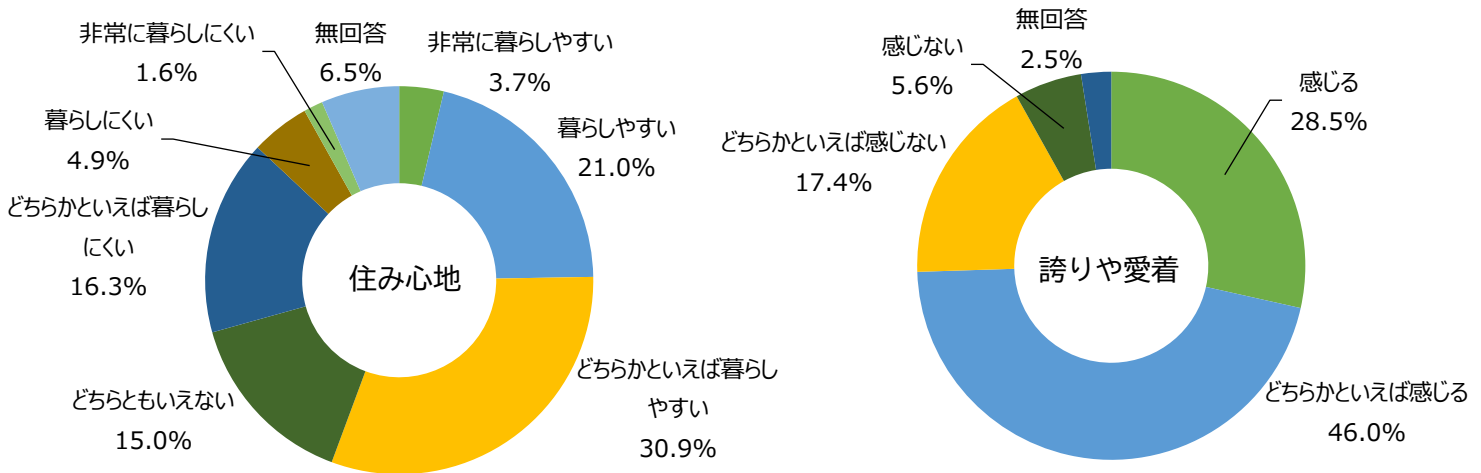
資料：まちづくり基本計画

- ・避難した人が41.1%、避難していない人が53.4%。
- ・避難しなかった理由が、自宅が安全な場所にあった、避難勧告・避難指示が出ていない、避難を見合わせたという意見がありました。

3 市民のニーズ

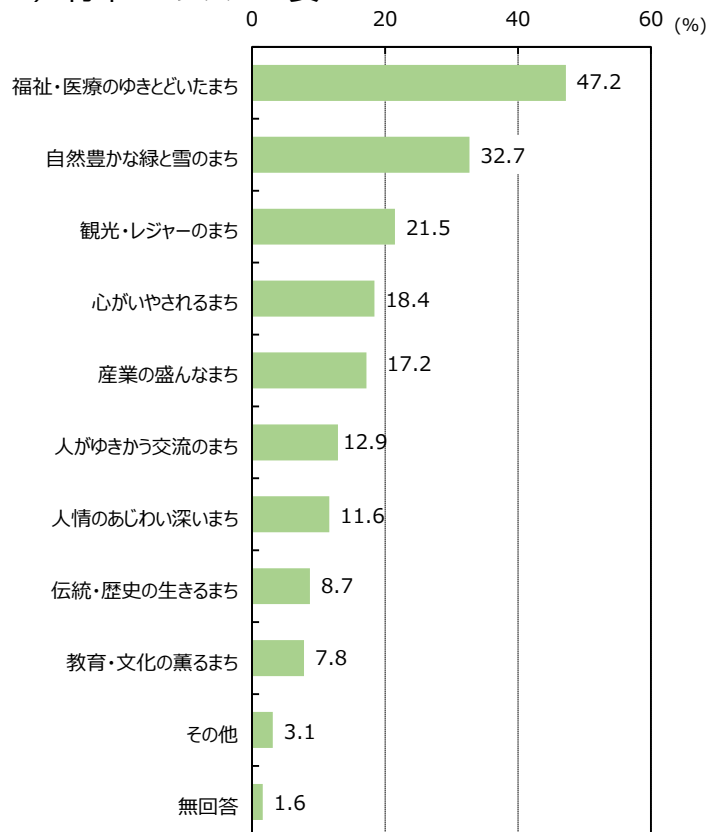
※市民アンケート結果より（1,338 人の回答）

（1）住み心地、誇りや愛着



- ・暮らしやすいと感じる人は合わせて約 56%です。なお、暮らしにくいと感じる人は合わせて約 23%です。
- ・誇りや愛着を感じる人は約 75%です。なお、誇りや愛着を感じない人は 23%です。

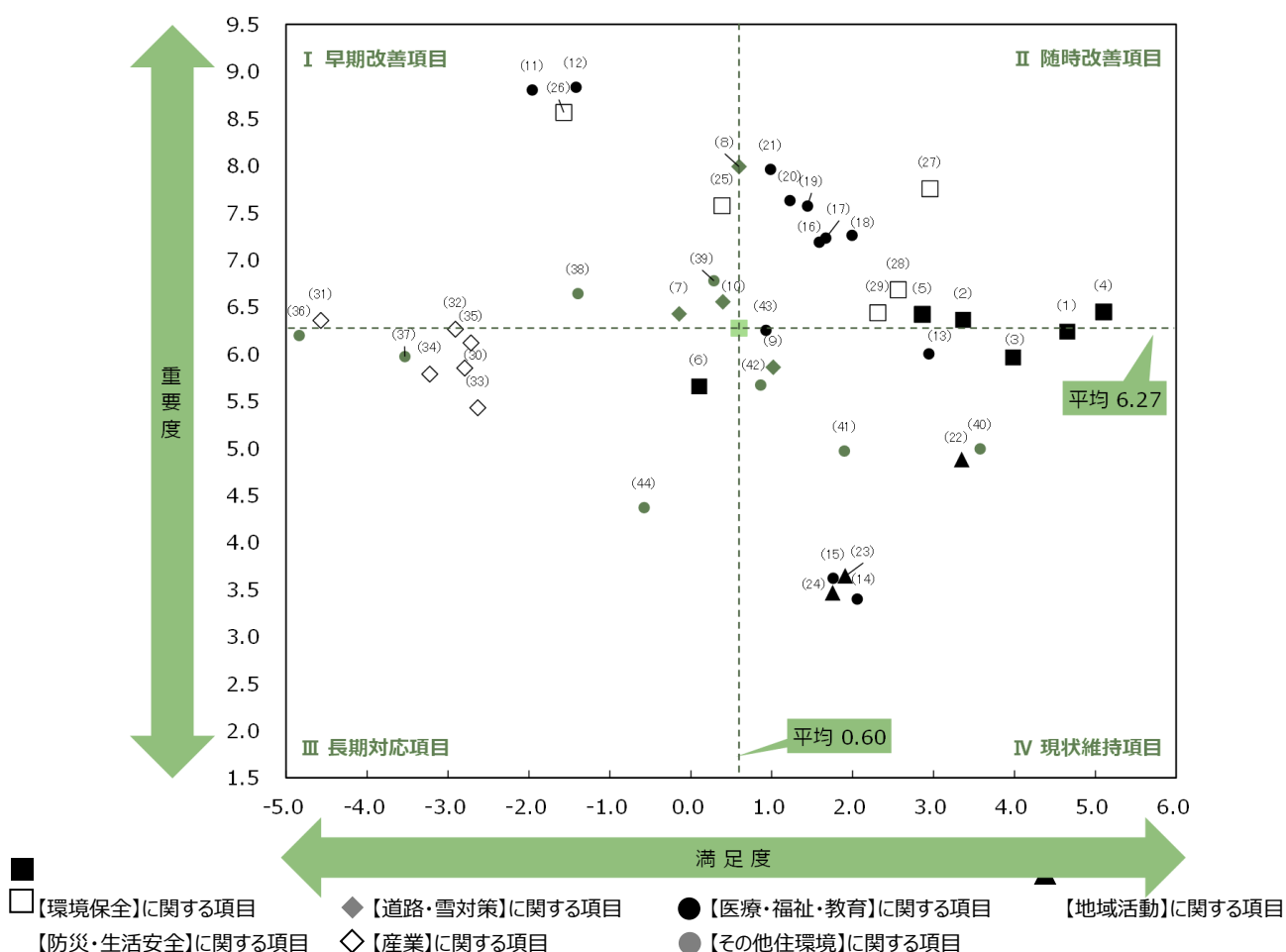
（2）将来のありたい姿



- ・前回同様、福祉・医療や自然を重視する意見が多い状況です。
- ・観光・レジャーを重視する意見も比較的多く見られます。

(3) 生活環境の満足度と重要度

- ・重要度も満足度も高い政策分野は、主に環境保全や福祉・教育です。
- ・重要度が高いものの満足度が低い政策分野は主に医療・道路・雪対策です。



Ⅰ 早期改善項目 (満足度低・重要度高)

	満足度	重要度
◆ (7) 道路の広さや舗装	-0.14	6.42
◆ (8) まわりの道路の除雪	0.60	7.99
◆ (10) 手近な雪の捨て場	0.40	6.55
● (11) 病気になったときの医療	-1.96	8.80
● (12) 急病や不慮の事故などへの救急医療	-1.42	8.83
□ (25) 道路交通の安全性	0.39	7.57
□ (26) 地震・水害・がけ崩れからの防災	-1.57	8.56
◇ (31) まちなかの商業・経済の活性	-4.57	6.36
● (38) 日常の交通の便利さ	-1.39	6.64
● (39) 日常の買い物の便利さ	0.29	6.78

Ⅱ 随時改善項目 (満足度高・重要度高)

	満足度	重要度
■ (2) 家庭雑排水、雨水の排水	3.37	6.36
■ (4) 上下水道の整備状況	5.10	6.44
■ (5) 公害など身近な生活環境	2.86	6.42
● (16) 小学校の教育施設や教育環境	1.59	7.19
● (17) 中学校の教育施設や教育環境	1.67	7.23
● (18) 保育所の施設や環境	1.99	7.26
● (19) 高齢者のための福祉	1.44	7.57
● (20) 障がいのある人のための福祉	1.23	7.63
● (21) 乳幼児や子どものための福祉	0.99	7.96
□ (27) 火災に対する消防体制	2.96	7.75
□ (28) 犯罪・風紀の取締り	2.57	6.68
□ (29) 悪質商法などの消費生活問題への対応	2.31	6.44

Ⅲ 長期対応項目 (満足度低・重要度低)

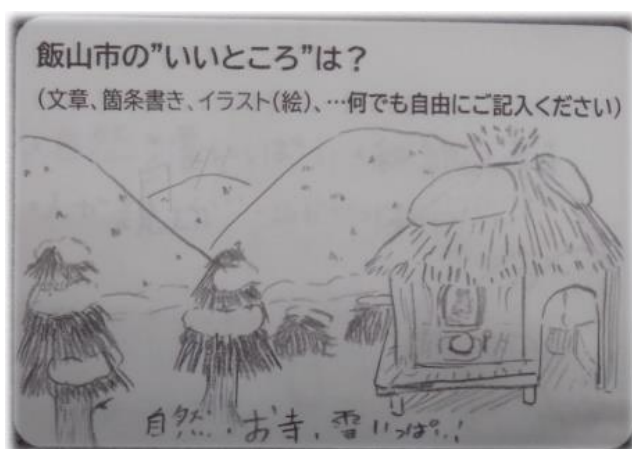
	満足度	重要度
■ (6) 自然環境と都市環境の調和がとれた土地利用	0.10	5.65
◇ (30) 観光産業の活性(宿泊・土産施設など)	-2.79	5.85
◇ (32) 農林業の活性(担い手育成・農林業施設など)	-2.91	6.26
◇ (33) 製品のブランド化や農業・商業・工業の連携	-2.63	5.43
◇ (34) 新しい産業の創出や商品開発	-3.23	5.79
◇ (35) 就業に向けた相談体制や通勤支援	-2.71	6.12
● (36) 信州の北の玄関口である飯山駅周辺のにぎわい	-4.84	6.19
● (37) 公園、子どもの遊び場	-3.53	5.97
● (44) 余暇やレジャー	-0.57	4.37

Ⅳ 現状維持項目 (満足度高・重要度低)

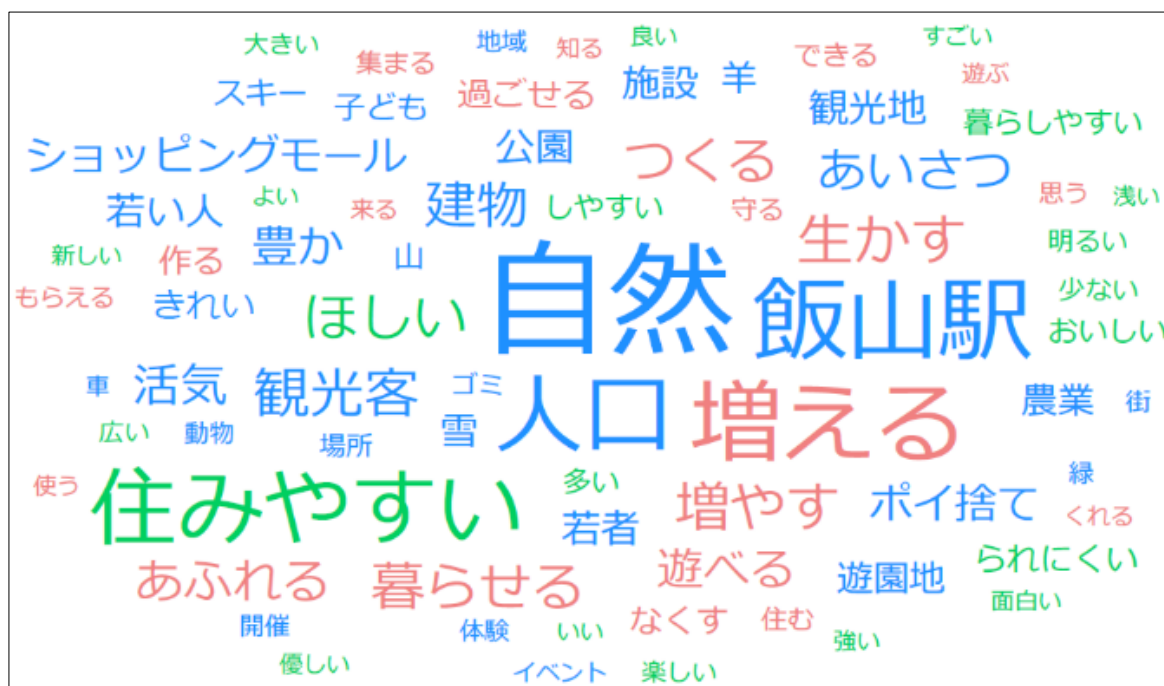
	満足度	重要度
■ (1) 自然環境のよさ	4.65	6.24
■ (3) ごみの分別方法、回収方法	3.99	5.96
◆ (9) 雪どけ時の水はけ	1.02	5.86
● (13) 住民検診など日常の保健活動	2.94	6.00
● (14) 公民館など社会教育施設や社会教育環境	2.06	3.40
● (15) 伝統文化の継承や芸術文化活動を行う環境	1.76	3.62
▲ (22) 近所の人とのつきあい	3.35	4.88
▲ (23) 地区の活性化活動	1.91	3.64
▲ (24) 男女共同参画など人権意識の啓発	1.76	3.46
● (40) 広報紙や防災無線など市の広報活動	3.57	4.99
● (41) 市役所の利用のしやすさ	1.90	4.97
● (42) 観光、防災などにおける近隣市町村との連携	0.86	5.67
● (43) 住まいの良さと住宅環境	0.93	6.25

(4) ミライ提案シート（小中学生）

市内小中学校の児童や生徒が提案する 10 年後の将来像の多くは、自然を守り飯山駅を活用して人口を増やし、住みやすい地域にしたいという意見でした。



飯山市の「いいところ」や「将来像のイメージ」をイラストで表現していただきました。

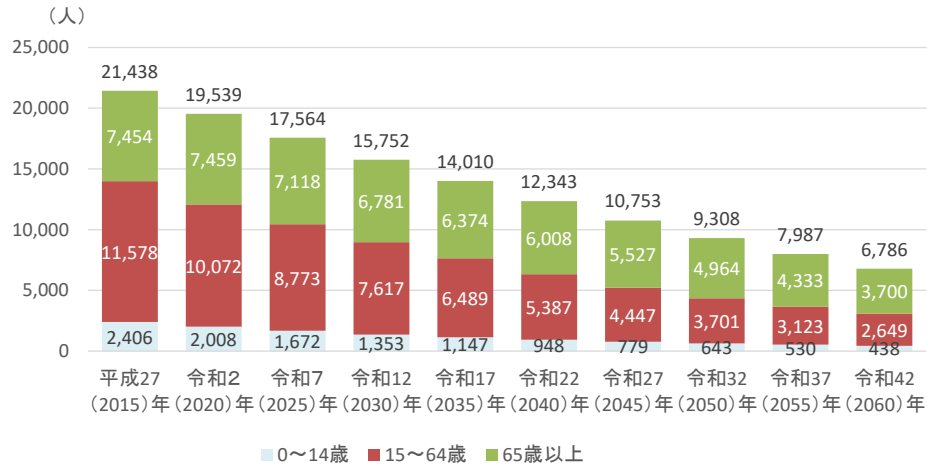


AI 分析・・・提案の単語分析(スコア(その単語の「重要度」を表す値(特徴的な単語))が高い単語を複数選り出し、その値に応じた大きさで図示しています。)

4 人口ビジョン

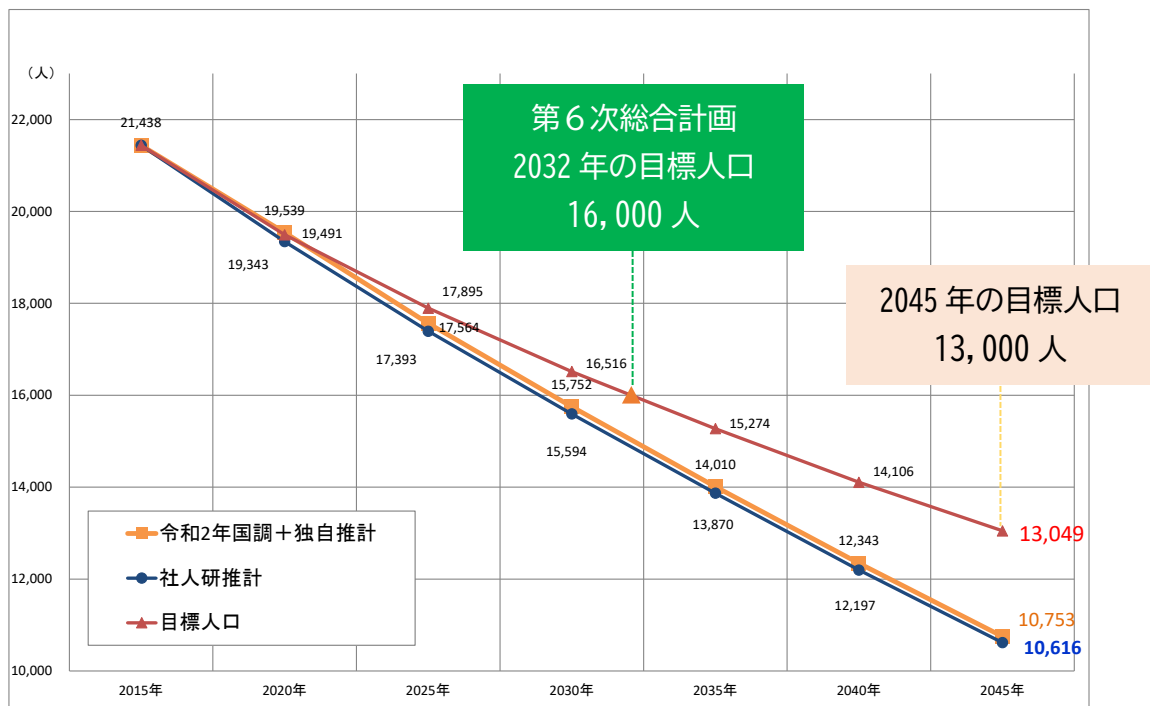
(1) 将来人口推計（令和2年国調＋独自推計）

令和2年国勢調査結果を使い国立社会保障・人口問題研究所（社人研）推計に準拠した独自の推計人口は以下のとおりです。



- ・長期推計では、2050年には総人口が1万人を下回ることが予測されます。
- ・年齢3区分別でもどの年齢区分でも減少することが見込まれ、移住・定住施策の推進、関係人口の増加を図りつつ、各主体が連携したまちづくりが求められます。

(2) 将来展望



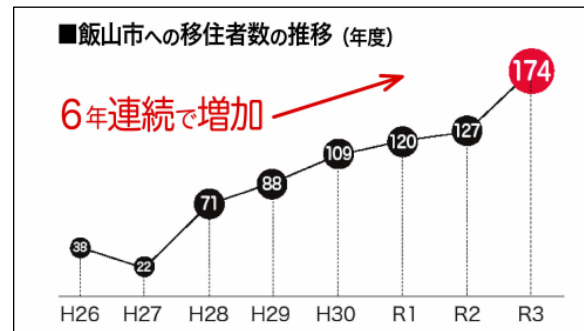
- ・令和2年国勢調査結果を使い社人研推計に準拠した独自の推計人口は、令和2年度に示した社人研推計よりも若干増になると見込まれますが、引き続き人口減対策が必要です。
- ・出生率の改善、移住定住施策の推進など自然増、社会増に関する事業に取り組むことにより、2045（令和27）年の人口13,000人を目指します。
- ・以上の考えに基づき、第6次総合計画の最終年度2032（令和14）年は、目標人口の推移から推計した人口16,000人を目指します。

5 飯山市第5次総合計画（10年間）の総括

平成27年春の北陸新幹線飯山駅開業後、駅周辺には複数の新たな商業施設が進出するなど新たな賑わいが生まれたほか、賑わい創出拠点として、令和3年度に民間事業者との基本協定により市も支援するなかで、飯山駅前市有地にホテルの建設が決定しました。



移住定住に関する取組では住宅建設や通勤などの各種支援とともに、きめ細かな相談体制により、30代の若者世代を中心に移住者は増加傾向で、令和3年度の移住者は過去最高の174人となり、社会減の改善につながりました。



若者の起業支援に関する取組では、「起業支援補助事業」により、平成26年から令和3年度まで41件の起業を支援しました。

また、飯山を元気にしたいと願う事業者や、応援する人々が集い、市の地域課題をビジネス手法で解決する「グッドビジネス事業」を、県立大学と連携して取り組み、20人の若手事業者の新規事業開発のサポートを行いました。

安心して暮らせる地域づくりに関する取組では、地域中核医療機関の機能充実に向けた支援を行うほか、高齢者等世帯の屋根の雪下し等の費用に対する支援や緊急時避難路確保を目的とした除雪作業員による除雪支援や、地域の皆さんが取り組む除雪支援の活動への支援など雪国ならではの除雪に対する取組を行いました。



その他、後期基本計画（平成30年～令和4年度）に掲げた施策毎の達成目標数239の内、「達成」、「概ね達成」は203で、全体の80%を占めました。

これらのことから、第5次総合計画の取組の成果は数字や形となって表れており、将来都市像に掲げた「自然と共生する豊かな暮らし」の実現に向け、着実に進めることができました。

以下、第5次総合計画期間中に実施した主な施策や事業などの取組状況を6つの基本目標毎にまとめました。

第1章 自然共生による新しい価値観の発信

- ◆第3次飯山市環境基本計画では、環境問題の一つである地球温暖化対策を重点プロジェクトとして位置付け、「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、令和4年度から地球温暖化対策のマスタートプラン策定のための基礎調査に着手しました。
- ◆市のプロジェクト事業として農福連携事業を推進し、「障害者就労継続支援A型事業所」を誘致し、障がい者の就労の場と、市の基幹産業である農業の新たな担い手が生まれ、市民の理解と地域への定着が図られました。また、令和4年には農福連携をベースに障がい者の就労を目指した居場所づくりのための「地域活動支援センター」が活動を開始しました。
- ◆起業・創業希望者に対し起業に要する費用を補助することにより起業しやすい環境づくりを行ったほか、起業・創業を考えている方に対し、起業能力を修得するための人材育成塾を開講するなどの支援を実施しました。
- ◆安定的かつ継続的な事業活動ができる起業者を育成し新たな雇用の場の創出を図るため、IT事業者によるサテライト・オフィスとしての活用にも対応可能な、飯山市起業支援センター「あすちゃれ」を整備しました。
- ◆長野県立大学と包括連携協定を締結し、相互が有する資源及び研究成果等を活かし、文化、産業、教育、学術等の分野における交流、連携及び協力を通じ、地域の振興及び発展、教育研究の充実並びに人材の育成を図りました。令和元年度からは、飯山を元気にしたいと願う事業者や、応援する人々が集い、市の地域課題をビジネス手法で解決する「グッドビジネス事業」に取り組みました。
- ◆自然エネルギーの活用として、新たな産業につながる「雪室」を利用した地域の特色ある商品開発に取り組みました。
- ◆大都市にはない飯山ならではの価値を見出すとともに、「飯山市で結婚・子育てできる若者定住モデル」を構築するため、市内外の若者で構成する「若者会議」を平成26年度に発足しました。同会議では5つの分野の分科会で議論を重ね、市へ提言いただきました。市ではこの提言を施策に反映し取り組みを進めました。

- ◆飯山市の将来あるべき姿を描き、実現に向けた多様な意見を政策等に生かすため、概ね30歳から45歳までの若い世代で構成する「市民アイディア会議」を令和4年度に発足しました。同年度は令和5年度を初年度とする第5次総合計画の将来都市像や基本目標の素案づくりを行うとともに新たな施策のアイディア出しをいただきました。

第2章 飯山の四季の美しさを活用したまちづくり

- ◆新幹線駅開業に向け、市をあげて開業イベントを実施しました。開業直前の平成26年8月には、新幹線駅舎に映像を投影した国内最大級のプロジェクションマッピングを、1万2千人もの大勢の皆さんを前に実施しました。
- ◆飯山駅に降りる来訪者を、駅前から市街地へと誘導するため、寺社由来案内のサイン・広小路・飯山城址公園の整備等を進めたほか、寺巡り遊歩道についても新たに整備計画を策定し、交流人口の増加・賑わいの創出を図りました。
- ◆新幹線飯山駅開業を契機とし魅力ある商店街づくりとして、本町アーケード整備の支援を実施しました。
- ◆飯山市のまちづくり・都市計画の基本方針を定めるマスタープラン「飯山市まちづくり基本計画」を令和2年度に策定し、人口減少・少子高齢化が進むなかでも暮らし続けられる維持可能な都市構造として、中心拠点と周辺集落が強く結ばれる「多極ネットワークコンパクトシティ」を設定しました。
- ◆賑わい創出拠点として、民間事業者との基本協定により市も支援するなかで、新幹線飯山駅前市有地へのホテルの建設が決定しました。
- ◆新幹線飯山駅周辺の市有地及び民有地に商業施設の誘致を行い、駅周辺のにぎわいを創出しました。
- ◆持続可能な公共施設の維持修繕を目指し、市道や準用河川などの集落維持整備活動を区と市が協働して行う「協働のいじしゅうぜん事業」を創設しました。
- ◆下水道終末処理場の耐震対策を進めるとともに、下水道経営戦略に基づく農業集落排水施設の公共下水道への統合により、施設整備の最適化を図りました。
- ◆平成26年度及び平成29年度に簡易水道事業及び飲料水供給施設を段階的に上水道事業に統合し、水運用や経営管理の一元化により安全性、サービス向上を確保し、効率的な事業運営に取り組みました。

第3章 高速交通網による交流の促進

- ◆新幹線飯山駅都市施設内にNAGANOモビリティの拠点となる「信越自然郷アクティビティセンター」を開設し、新幹線飯山駅と周辺の観光拠点とを繋ぐ二次交通の整備やハブ機能の充実を図ったほか、来訪者へ信越9市町村の独自の文化と特有の自然観光ならではの「アウトドア」や「食文化」、「リラクゼーション」を提供するための情報発信や商品開発、受入れ環境整備を推進しました。

- ◆新幹線飯山駅開業により、平成30年度には外国人来訪者（駅観光案内所）は年間11,000人台となり、開業直後の平成27年度に対して165%増加しました。来訪者の85%が冬期スキーシーズンに集中しているものの、グリーン期も同比250%と増加率が高く、信越トレイルや農村体験を目的としたツアーの受け入れも増加傾向でインバウンドに大きな波及効果が表れました。
- ◆飯山線と豊かな食文化の連携PRとして「飯山線 走る農家レストラン」をJR東日本長野支社と共同で開催しました。
- ◆飯山市と中野市の共催による「千曲川・高社山 SEA TO SUMMIT」を開催しました。恵まれた自然環境の中で行われるスポーツイベントに、初回の平成29年度には全国各地から140名を超える参加者がありました。
- ◆来訪者へより安心安全な旅を提供するため、信越自然郷エリアのサイクルツアー等に帯同する「信越自然郷サイクルツアーサポートバス」を整備しました。これは官民協働による運営であり、新しい旅のスタイルが追加されました。
- ◆地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、令和4年度に「飯山市地域公共交通計画」を策定しました。市民の日常生活における移動手段として、また、駅に降り立った観光客が次の目的地まで快適に移動できる観光二次交通の実現を目指し、様々な課題解決に向けた取組を定めて着手しました。

第4章 地域産業おこしと若者定住

- ◆地域農業の振興として、各地区の実情に沿った農地集積を行ったほか、新規就農者等へ支援対象を国の要件より緩和し、向上意欲のある就農者や農業法人への市単独支援を行いました。
- ◆JA、商工会議所等経済団体と連携し、市民のアイディアによる駅弁コンテストを開催したほか、地域の食材等を活用した新たな土産品や新商品の開発を支援しました。
- ◆米食味コンクール及び「食の講演会」等を開催したほか、みゆきポークの母豚更新補助、加工商品開発・販売対策支援、生産振興プロジェクトを充実するなど農産物の販売を推進しました。
- ◆米・アスパラガス・きのこ・花卉・きゅうり・ズッキーニ等振興作物づくりへの支援や常盤ごぼう・坂井芋の伝統野菜と郷土料理の魅力を発信しました。
- ◆後継者不足が課題となっている伝統産業、建設業などの技能職人後継者の育成を図るため、支援制度を創設しました。
- ◆移住希望者の多様なニーズを踏まえ、移住する際の住宅建設、中古住宅の購入及びリフォームに対する助成や、新たに親子等で同居するための住宅の新築、増改築に対する支援を行うとともに、飯山市への移住希望者に対する支援制度等のきめ細やかな相談に対応するため移住定住推進員を設置しました。

- ◆市内での若者の生活を応援するため、市内企業に就職する新卒者の奨学金返済の補助や、ＪＲ飯山線や新幹線通勤及び市外へ通勤する場合の駐車場利用料金に対する補助を行いました。
- ◆移住希望者に対する飯山市の支援制度等のきめ細やかな相談や現地見学ツアーの実施したほか、若者世代に向けた移住・定住の促進を図るため、移住定住促進住宅や若者住宅を整備しました。
- ◆移住希望者や新規就農者等の多様なニーズを踏まえ、耕作放棄地の解消と定住促進を図るため、農地取得下限面積を見直し、農地付き中古住宅の取得や非農家の小規模農地取得を可能にしました。
- ◆三世代が同居する住宅を新築・増築・改築した場合の補助制度を創設しました。
- ◆道の駅「花の駅 千曲川」に、農産物直売所とレストラン等の機能を兼ね備えた農業観光振興拠点施設を整備し、飯山の「農産物」と地元の食材を活かした「食」の充実を図るとともに、アクティビティ拠点施設の建設にも着手し、総合的な道の駅とすることで、飯山市の魅力の発信と併せ、関係交流人口の増加に向けた取組を進めました。

第5章 たくましさと郷土愛を育てる環境

- ◆飯山市の教育を担う教員の確保を目的に、長野県小中学校教員になることを志し、短期大学又は大学へ進学する学生に対して、奨学金を無利子で貸与し、一定の条件を満たせば償還額の1／3を免除する奨学金制度を創設しました。
- ◆児童生徒の国際感覚及び英語コミュニケーション能力の向上を目指し、小・中学校への外国語指導助手の増員に加え、令和3年度まで中学生の英語検定受検費用に対する補助を行い、令和2年度から全中学3年生のGTEC受験を公費の負担としました。
- ◆1人1台端末などのICT教育の環境整備を進めたほか、AI、IoT時代に対応するため、STEM教育を導入し、プログラミング教育を進め、論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成を推進しました。
- ◆飯山市教育委員会と中国の深圳外国語学校や豪州バサーストハイキャンパス校との中学生国際交流事業により、それぞれ交互に生徒が行き来し、交流を深めました。
- ◆飯山の新たな学校の目指す姿と保育園のあり方や児童クラブ・児童センターなどの考え方を示した「飯山の新たな学校づくり計画」を市民とともに策定し、令和7年度の開校に向けた城北中学校区の統合小学校整備に着手しました。
- ◆飯山市の教育の目指す姿を示した計画「飯山市教育大綱」を平成27年度に、「第2次飯山市教育大綱」を令和2年度に策定し、変革する社会や持続可能な社会に対応できる飯山の子どもを育てる環境づくりを進めました。
- ◆高校生が提案する、飯山市を考え活性化させるための事業に対する支援を行い、未来を担う若者の活動を応援しました。

- ◆広域連携の初めてのイベントとして「北信州ハーフマラソン」を野沢温泉村、木島平村と共同で開催しました。
- ◆令和3年2月に、第70回全国高等学校総合スキー体育大会が飯山市で開催され、全国から集まった選手が、郷土と母校の名誉をかけて、熱戦を飯山で繰り広げました。
- ◆「芸術・文化」、「交流」、「にぎわい」をもたらす複合拠点施設として飯山市文化交流館「なちゅら」を建設しました。市内外からの多くの人々が集い、交流する場として芸術文化事業のみならず、産業や観光、福祉、教育、地域振興など様々な活用を創出しました。
- ◆小菅地区が文化庁の重要文化的景観に選定されました。素晴らしい貴重な景観を大切にするために保存計画に沿った小菅一帯の調査や整備を進めました。
- ◆男女がお互いの人権を尊重しつつ喜びや責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会を実現するため、令和2年3月に第4次飯山市男女共同参画計画を策定し取組を推進しました。

第6章 子どもから高齢者まで安心して暮らせるまち

- ◆子どもを安心して育てられる環境づくりのため、福祉医療費の給付対象を18歳まで拡充しました。また、第3子以降の保育料無料化（令和元年10月からは国の制度により「3歳以上保育料無償」）に加えて、満1歳からの保育、保育時間の延長、土曜一日保育・休日保育、副食費の無料化を実施したほか、保育料の階層区分を細分化し、保護者の負担軽減を図りました。
- ◆妊産婦の医療費に対する支援、出産時のタクシー利用料金助成を創設するとともに、子育て世代包括支援センター「あいえーる」を設置し、妊産婦乳幼児の健康増進及び保持に関する支援など妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図りました。
- ◆子育て支援の拠点施設として飯山市子ども館「きらら」を整備しました。機能には、子育て等の相談及び児童センター・児童クラブ・子育て支援センター・病後児保育・放課後等デイサービスを盛り込み、子育て環境を更に充実させ、若い世代の子育て支援と次世代を担う子どもたちの成長の応援を行い、子育てに関する総合的な支援を進めました。
- ◆「こうのとりの支援事業」（不妊治療・不育症）により、過去3年で10人以上のお子さんの誕生につながりました。
- ◆新生児に対する出産特別給付金10万円を給付しました。
- ◆新生児の聴覚検査、日本人の胃がんの原因と言われるピロリ菌検査への支援を行い、市民の健康増進を図りました。

- ◆死亡率が増加している乳がんの検診について、従来の節目の年齢への無料クーポン券の配布に加え、罹患率の高い46歳から59歳の年代にも2年に1回無料での検診を実施しました。
- ◆糖尿病など生活習慣病の原因ともなる歯周病の早期発見による治療を促し、健康寿命の延伸を図るため、令和2年度から口腔内疾患検診を40、50、60、70歳の方を対象に無料で受診できるようにしました。
- ◆高齢者に関する各種保健福祉事業や介護保険制度の円滑な実施に関する総合的な計画として、老人福祉計画・介護保険事業計画を策定し、より良い高齢者福祉の実現を目指し取組を進めました。
- ◆障がい福祉サービスや障害児通所支援等の提供に関する体制づくりや、サービス等の確保などを定めた障がい福祉計画・障がい児福祉計画を策定し取組を進めました。
- ◆在宅で生活する障がい者が安心して地域で暮らし続けられるように、北信圏域6市町村共同で緊急時における相談・訪問、ショートステイ用の部屋の確保など、24時間・365日の支援体制を整えました。
- ◆生活困窮者に対して、家計相談や生活困窮世帯の不登校児童の学習支援や居場所づくり、不登校の高校生等の通信教育を支援するなどの新たな取組を行い、自立に向けた支援を拡充しました。
- ◆高齢者や弱者世帯等の屋根の雪下ろし等の費用に対する助成に加え、安心して住み続けるために住宅から道路までの玄関先の除雪支援を行うとともに、地域における除雪支援体制の組織化や組織における除雪機購入に対して支援する制度を創設しました。
- ◆日常生活を支える様々なサービスの確保を含めた、サービス付き高齢者向け住宅を誘致したほか、補助制度によりグループホームが整備され、高齢者介護施設の充実が図られました。
- ◆健康長寿を基盤とする活力ある地域づくりを推進するとともに、地域の健康増進と人材の育成に寄与することを目的に長野保健医療大学と協定を締結しました。
- ◆地域中核医療機関の機能充実に向けた支援を継続するとともに、医学生奨学金や医師研究資金の貸付を拡充することにより、飯山赤十字病院の勤務医不足に対して、医師招聘の推進を図りました。
- ◆学校法人文化学園と文化興隆、産業振興、教育、学術研究の分野で相互に協力し、地域発展及び人材育成に寄与することを目的に包括的な連携協定を締結するとともに、市と文化学園、信州いいやま観光局による三者の「飯山市における地域資源の魅力発信事業」に資する覚書への調印を行いました。
- ◆「健康増進」、「熱中症対策」、「スポーツ振興」、「災害対策」など各分野において同社の様々な知見やノウハウを生かした取組を連携して推進するため、大塚製薬（株）と包括連携協定を締結しました。

- ◆高齢化によるフレイル予防や通いの場の創出を目的に、トヨタ自動車(株)が開発するミストサウナ入浴車両を運行する実証実験を令和2－3年度に行い、令和4年度から介護予防事業の一環として、民間事業者がサービスを開始しました。
- ◆4者（西武文理大学、(株)フジすまいるファーム飯山、(一社)信州いいやま観光局、飯山市）による福祉、観光、産業、教育等の分野における連携により、地域の振興と発展、教育研究の充実や人材育成を目的とした基本協定を締結しました。
- ◆移動販売車の導入支援により、買い物に出かけることが困難な山間地の高齢者に対する買い物支援を行いました。
- ◆ふるさと納税制度を積極的に活用した「悠久のふるさと飯山応援金」は、全国から多くの寄付をいただいたほか、市内経済の活性化にも大きく寄与しました。
- ◆納税相談や滞納整理などの収納率の向上対策等により、高い収納率を維持し続け、令和2年度においては市税・国保税とともに県下19市中1位となりました。
- ◆自然災害等に対する防災体制の強化、高齢者が安心して暮らせる環境整備に向け、新たにデジタル防災行政無線の整備を行うとともに、屋外スピーカーの設置やメール配信サービスなど情報伝達の多重化を図りました。
- ◆全国的に人口減少・高齢化が進展するなかで、国の「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、平成27年度に飯山市総合戦略を、令和2年度に第2期飯山市総合戦略策定しました。新幹線時代の飯山市づくりを戦略の基本に位置付け、「地域経済の活性化・雇用創出」、「若者定住・移住定住推進」、「子育て支援・次世代育成」、「いつまでも安心して暮らせる地域づくり」の4つを戦略の柱とし、第5次総合計画とあわせて地方創生に取り組みしました。
- ◆少子高齢化が進行する中、持続可能な集落活動を支援するため、地域コミュニティの機能の核となる共同集会施設の改修等に対する支援制度を創設しました。

令和元年東日本台風の復旧・復興に関する取組

- ◆「飯山市生活支援・地域ささえあいセンター」を開設し、日常生活上の相談や孤立防止等のための支援を行うとともに、被災者を関係支援機関へつなぐなどの支援を行いました。
- ◆被災住宅応急修理や被災家屋撤去に関する支援を行ったほか、多くの商店や事業所の被災、多くの農地の土砂堆積や農機具の水没などの被害に対しては、国・県そして市が一丸となって経済復興対策を進めました。
- ◆災害時応援協定都市や近隣・県内市町村、県の支援といった市外からの行政支援のほか、市内の各種関係団体（建設業協会、社会福祉協議会、商工会議所など）との復旧に関する連携などの対応を迅速に実施することができました。
- ◆各区における防災マップの作成を促進するとともに、自主防災力の向上を図りました。

- ◆市街地における雨水貯留施設の設計等、雨水排水対策に取り組むほか、出水期に備えた排水ポンプの配備など、激甚化・頻発化する豪雨災害への対策を進めました。

新型コロナウイルス感染症対策に関する取組

- ◆小中学校の児童・生徒全員へのタブレット端末の配備や、ＩＣＴ教育の推進による端末の利活用に向けた取組など、コロナ禍における学習機会の継続性を確保しました。
- ◆ライフスタイルの変化に対応すべく、ワーケーション用住宅等を活用した移住定住施策を推進しました。
- ◆長期化する感染症の影響や「まん延防止等重点措置」の適用による事業者の事業継続に向け、売り上げが激減した事業者への直接支援や、制度融資による資金繰り支援、またプレミアム付商品券の発行支援などを通じた市内における消費喚起を図りました。

6 飯山市における主な分野別の課題

社会の潮流、現状データ、市民ニーズ及び第5次総合計画の総括などから、5つの分野に分け、主な課題を整理します。

(1) 自然環境・移住定住・観光交流・新たな価値の創出

- ◆飯山市の美しい四季のある自然環境を守るとともに、その魅力を最大限活用し、飯山ならではの新たな価値を生み出すことが必要です。
- ◆デジタル技術の進化やライフスタイルの多様化により、都市部の企業においてはテレワークやワーケーション、ブレジジャーなど新しい働き方も注目されていることから、豊かな自然環境を生かし積極的な誘致や支援とともにニーズに合わせた環境整備が必要です。
- ◆市への関心や愛着の向上を図るとともに、定住人口、交流人口、関係人口の創出・拡大に向けた効果的な情報発信と戦略的なプロモーションが必要です。
- ◆新幹線飯山駅開業によるインバウンドへの波及効果は大きいため、更なる冬期誘客に努めるとともに、グリーン期においても外国人の関心度の高いコンテンツを充実することが必要です。
- ◆地方への移住希望の機運が高まっています。本市が選ばれる地域となるよう、多様化するニーズに合った支援や制度の整備が必要です。
- ◆地球温暖化による気候変動の影響は、当市にも猛暑・大雨・豪雪・寡雪等顕著に表れています。気候変動を緩和するため、再生可能エネルギーの活用や脱炭素社会への転換が強く求められているとともに、適応策を検討する必要があります。
- ◆市民の環境に対する興味や関心を高め、環境を学ぶ姿勢や豊かな自然環境を保全する住民主体の取組等を後押しする必要があります。
- ◆公共施設等の未利用施設の活用のほか、空き家や耕作放棄地などが周辺環境へ深刻な影響を及ぼしていることから、早期の対策が必要です。

(2) 子育て・教育

- ◆子育てを取り巻く社会環境や家庭環境など様々な環境の変化に対する各家庭の状況把握と改善に向けた支援が必要です。
- ◆妊娠・出産・子育てまで、一人ひとりの希望が叶うよう、切れ目のない支援が必要です。
- ◆基礎学力の確保に加え、問題の論点を整理し課題解決できる力を身に着ける環境整備が必要です。
- ◆ふるさとに誇りを持つとともに、地域の課題に向き合うことで地域の一員として地域づくりを行ったり地域を大切にしたりする心を培うため、ふるさとを学ぶ機会を提供することが必要です。

- ◆ICT教育・プログラミング教育の推進や、国際化社会に対応するための外国語教育を含めた国際化教育の強化が必要です。

(3) 地域産業・雇用

- ◆市民アンケート調査では、飯山駅周辺の賑わいに関する満足度が低く、事業者や商業施設等の誘致が求められています。
- ◆人口減少・高齢化により、経営者の後継者不足が深刻となっていることから、省力化や担い手の確保・育成が必要です。
- ◆地域経済を支える市内企業の育成や雇用の確保などの支援やデジタル技術の活用や産業連携などによるイノベーションに向けた取組が必要です。
- ◆伝統文化の継承と産業の振興を図るため、後継者の確保や人材育成への支援が必要です。
- ◆ライフスタイルや価値観の多様化に応じた柔軟な働き方へ改革が求められています。

(4) 市民協働・生きがい・文化・行財政

- ◆若者の力をこれからの飯山の活力につなげられるよう、コミュニティの場づくりや新たな取組にチャレンジできる仕組みづくりが必要です。
- ◆市民一人ひとりが地域課題を自分事と捉え、課題解決に向けて自ら、または市民協働で取り組むことが必要です。
- ◆結婚希望者の成婚へつながる支援として、婚活イベント等の参加者の確保や出会いの場の提供だけでない、結婚希望者の個別サポートが必要です。
- ◆飯山で生きがいをもって住み続けることができるよう、時代の変化に合わせた知識やスキルを習得できるなどリカレント教育(大人の学び)の場が必要です。
- ◆多様性を受け入れ、互いを尊重し、支え合いながら暮らせる地域づくりが必要です。
- ◆芸術文化の振興を図るため、市民が芸術文化に触れる機会の場を創出することが必要です。
- ◆市内にある文化財や歴史的景観を適正に保存し、後世に伝えていくことが必要です。
- ◆健康増進や体力向上を図るため、それぞれの年代で気軽に多種多様なスポーツを楽しむ環境づくりが必要です。
- ◆市民サービスの向上を図るため、一層の財源確保に努めるとともに、事務事業の見直しや民間・都市間連携を進めるなど持続可能な行財政運営への取組が必要です。

(5) 公共交通・医療・福祉・インフラ・防災

- ◆市民アンケート調査では、市民が願う市の将来像として「福祉・医療のゆきとどいたまち」が最も高いことから、地域の医療体制の検討及び地域中核医療機関の支援をはじめ、救急体制の確保や介護サービスの充実など、いつまでも安心して暮らせるよう一層の取組が求められています。
- ◆人口減少や少子高齢化により、地域のつながりが希薄になったり、コミュニティ活動が低下するなどの傾向があるため、地域福祉の担い手の確保をはじめ、地域で支え合う仕組みや行政のサポートが必要です。
- ◆集落と市街地を結ぶ移動手段、他の地域を結ぶ移動手段、飯山駅を起点とした二次交通など市民や来訪者の様々なニーズを踏まえ、効率的で利便性の高い公共交通網の形成が必要です。
- ◆道路、橋りょう、上下水道などのインフラ資産の老朽化への対応や強靱化を推進するため、限られた財源のなかで、計画的な施設整備が必要です。
- ◆流域治水や土砂災害対策を進めるとともに、ハザードマップの作成・周知等で災害時に避難場所への早期避難を促し、リスクを低減させる必要があります。
- ◆災害が激甚化・頻発化しているため、国や県をはじめ関係機関と連携を密にした防災体制の構築や日々進化するテクノロジーの活用による災害予測や対応を図るとともに、自主防災組織を中心とした地域の助け合いなどの仕組みづくりが必要です。

7 第6次総合計画の方向性

全国的な人口減少・少子高齢化が急激に進行します。今後、生産年齢人口が減少するため地域経済の縮小による税収減や社会保障費の増加により行政サービス水準の維持が困難になるなどの影響が危惧されます。

また、地域の担い手が不足し、これまでの集落活動が維持できなくなるなど地域コミュニティ機能の低下にも大きく影響します。

一方で、デジタル技術の急速な進化や働き方改革の推進など、社会情勢に大きな変化がみられるなか、新型コロナウイルス感染症のまん延を契機に、人々の暮らし方や働き方に関する価値観の大きな変化により、ライフスタイルの多様化や大都会の便利な暮らしから地方での豊かな暮らしを選ぶ時代となりました。

これまでの10年間、豊かで恵まれた自然環境の中で、その魅力を高めながら、新幹線飯山駅開業を契機に、子どもから高齢者まで住みやすく、安心やゆとりが実感できる「自然と共生した新たな価値創造の都市」を目指し、令和元年東日本台風による被災や新型コロナウイルス感染症のまん延による影響を受けながらも市民とともにまちづくりに取り組んできました。

飯山市の最大の魅力は、季節の移ろいが豊かな美しい自然環境と、この地の人の営みによって育まれてきた「里山」が、世界を誘う玄関口「新幹線飯山駅」を包み込むように広がっていることです。この、飯山ならではの「里山」が、30代の若者世代を中心に日本人だけでなく外国人をも移住先として惹きつける魅力となっています。

これからの10年間、飯山市のあらゆる地域資源を最大限に引き出すとともに、デジタル技術の急速な進化や新型コロナウイルス感染症の影響による人々のライフスタイルの変化など、これからの時代への変化を的確に捉え、訪れたい・住みたい・暮らし続けたいと思われる「世界に誇れる里山」を目指し、一人ひとりが未来を考え知恵を出し合いながらまちづくりを進めます。

